

2017年(平成29年) 12月22日(金曜日) 毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

12/7~12/13のNYMEX・WTIIは、56.60~57.99ドルの範囲で推移した。

12月14日は、朝方、IEA月報による2018年の米国産油量の増加見通しを受けて、需給の緩みが意識され売られたが、売り巡後は、持ち高調整の買い戻し、ドル安・ユーロ高に伴う割安感から、3営業日振りに反発した。1月限の終値は前日比0.44ドル高の57.04ドルだった。

週末の12月15日は、亀裂により11日から稼働停止中の北海フォーティーズパイプラインの復旧に数週間かかるとの報を受けて、続伸した。ペカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が前週比4基減の747基と4週振りに減少に転じたことも支援材料となった。1月限の終値は前日比0.26ドル高の57.30ドルだった。

週明け18日は、北海のパイプライン稼働停止やナイジェリア石油労働者のストライキによる供給不安にもかかわらず、2018年の供給過剰懸念、納会前の持ち高調整や利益確定売りにより、3営業日振りに反落した。1月限の終値は前週末比0.14ドル安の57.16ドルだった。

19日は、北海パイプラインの補修には2~4週間を要するとの発表、ドル安・ユーロ高を受けて反発した。1月限の終値は前日比0.30ドル高の57.46ドルだった。

20日は、EIA週報で、市場予想を上回る原油在庫の取り崩しがあったことなどから、続伸した。この日から取引の中心限月となった2月限の終値は前日比0.53ドル高の58.09ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週59.30~62.50ドルの範囲で推移した。12月14

日60.10ドル、15日60.80ドル、18日61.00ドル、19日は61.10ドル、20日61.70ドルで推移した。

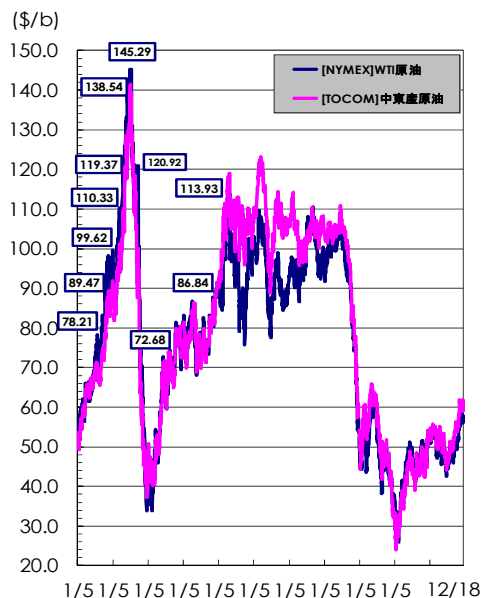
為替は、前週112.51~113.65円の範囲でやや円安に推移した。12月14日112.80円、15日112.40円、18日112.76円、19日112.62円、20日112.97円で推移した。

財務省が18日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、11月下旬の原油輸入平均CIF価格は、41,858円/klとなり、前旬を601円上回った。ドル建てでは58.58ドルで前旬比0.92ドル高。為替レートは1ドル/113.61円。また、同日発表の貿易統計(速報・月間ベース)によると、11月の原油輸入平均CIF価格は、41,168円/klとなり、前月を2,457円上回った。ドル建てでは57.65ドルで前月比2.90ドル高。為替レートは1ドル/113.53円。

主要元売会社の12月第4週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、据え置きと0.5~1.0円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油調達コストは値上がりとなった。

そのような中で、12月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油も同0.1円の値上がりだった。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は14週連続の値上がり、灯油も14週連続(18週ベース)の値上がりだった。この週(12月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置かれた。

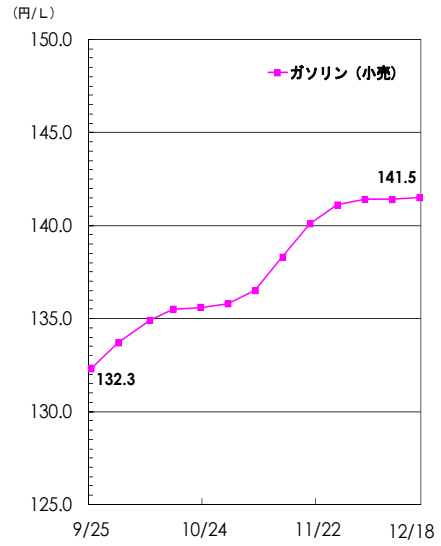
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|------------------------|---------------|--------------|---------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 12/10 ~ 12/16 | 3,764 ▲15 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 96.1 ▲0.4 | ▲ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 12/16 | 12,729 ▼-432 | ▼ - |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl) | 12/18 | 60.26 ▲0.24 | ▲ 7.6 |
| | WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl) | 12/18 | 57.16 ▼-0.83 | ▲ 5.0 |
| | 原油CIF単価 (\$/ bbl) | 11月下旬 | 58.58 ▲0.92 | ▲ 9.50 |
| | ①原油CIF単価 (¥/ kl) | " | 41,858 ▲601 | ▲ 9,443 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 113.61 ▲0.13 | ▼ -8.62 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 12/18 | 113.76 ▲0.89 | ▲ 4.87 |



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|---------------|---------------|-------------|-------|
| 需給 | 生産 | 12/10 ~ 12/16 | 995 ▼ -60 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 922 ▼ -27 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 95 ▲ 19 | ▼ - | |
| | 在庫 | 12/16 | 1,678 ▼ -22 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 12/12 ~ 12/18 | 58.6 ▼ -0.2 | ▲ 10.7 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 12/12 ~ 12/18 | 57.7 ▲ 0.3 | ▲ 8.9 |
| | | (TOCOM/中部) | 12/18 | 57.5 ▼ -0.4 | ▲ 7.6 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 12/18 | 141.5 ▲ 0.1 | ▲ 12.2 | |

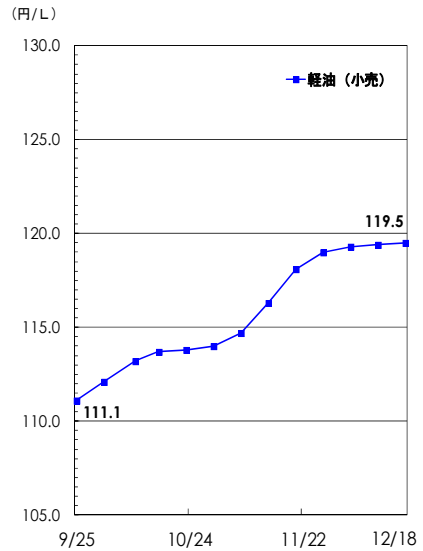
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

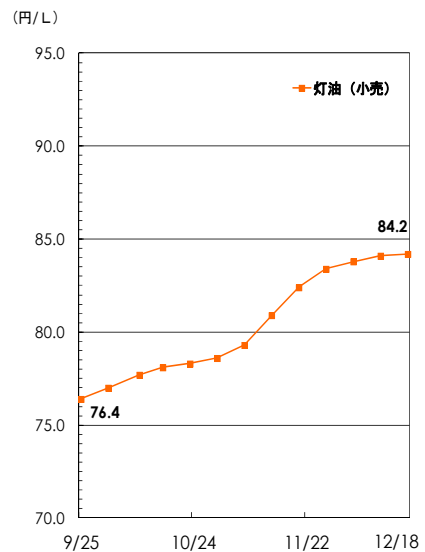
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|---------------|---------------|------------|--------|
| 需給 | 生産 | 12/10 ~ 12/16 | 835 ▼ -19 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 652 ▼ -11 | ▲ - | |
| | 輸出 | " | 185 ▲ 33 | ▼ - | |
| | 在庫 | 12/16 | 1,413 ▼ -2 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 12/12 ~ 12/18 | 58.5 ▼ -0.1 | ▲ 9.4 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 12/12 ~ 12/18 | 58.0 → 0.0 | ▲ 12.0 |
| | | (TOCOM/中部) | 12/18 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 12/18 | 119.5 ▲ 0.1 | ▲ 11.0 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|---------------|---------------|------------|-------|
| 需給 | 生産 | 12/10 ~ 12/16 | 465 ▲ 16 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 506 ▼ -16 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ▼ -49 | ▼ - | |
| | 在庫 | 12/16 | 2,390 ▼ -42 | ▲ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 12/12 ~ 12/18 | 60.6 ▼ -0.2 | ▲ 5.6 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 12/12 ~ 12/18 | 60.1 ▲ 1.0 | ▲ 5.9 |
| | | (TOCOM/中部) | 12/18 | 60.7 ▲ 0.2 | ▲ 6.1 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 12/18 | 84.2 ▲ 0.1 | ▲ 9.6 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

12月20日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫は前週比650万バレル減と市場予想(380万バレル減)を上回る取り崩しで4.4億バレルと2015年10月以来の低水準となったこと、ガソリン在庫も120万バレル増と市場予想(190万バレル増)を下回る積み増しであったこと、ゴールドマンサックスが2018年半ばまでに需給は均衡するとの見通しを発表したこと、北海のパイプライン事故で引き続きプレントが上昇していることなどから、続伸した。この日から中心限月となった2月限の終値は

前日比0.53ドル高の58.09ドル、3月限の終値は前日比0.55ドル高の58.13ドルだった。

EIAによると、12月18日時点のガソリンの小売価格は前週比3.5セント値下がりの1ガロン2.450ドル(73.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.9セント値下がりの2.901ドル(87.1円/ℓ)。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、12月10日~12月16日に休止したトッパー能力はなく、前週に対して横這いであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は376.4万klと、前週に比べ1.5万kl増加。前年に対しては27.2万klの減少。トッパー稼働率は96.1%と前週に対して0.4ポイントの増加、前年に対しても0.4ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.7%減、ジェット/6.5%増、灯油/3.5%増、軽油/2.2%減、A重油/6.3%減、C重油/3.3%減。今週のC重油の輸入は4.3万kl(前週比3.2万kl増)。軽油の輸出は18.5万kl(前週比3.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではA重油のみが増加となり、その他の油種で減少した。前年比では、軽油のみが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は92.2万kl(対前週2.8%減)と2週連続で前週比、前年比で減少となり、7週連続で100万klを下回った。ジェット9.3万kl(対前週8.5%減)、灯油50.6万kl(対前週3.1%減)、軽油65.2万kl(対前週1.6%減)、A重油27.2万kl(対前週4.0%増)、C重油29.4万

kl(対前週2.3%減)。

(単位:千KL)

| | 今週 (12/10 ~ 12/16) | 前週 (12/3 ~ 12/9) | 前週比 |
|--------|-----------------------|---------------------|-------------|
| ガソリン | 922 | 949 | ▼ -27 (-3%) |
| ジェット燃料 | 93 | 101 | ▼ -8 (-8%) |
| 灯油 | 506 | 522 | ▼ -16 (-3%) |
| 軽油 | 652 | 663 | ▼ -11 (-2%) |
| A重油 | 272 | 262 | ▲ 10 (4%) |
| C重油 | 294 | 301 | ▼ -7 (-2%) |
| 合計 | 2,739 | 2,798 | ▼ -59 (-2%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月16日時点の在庫は、ジェットのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは167.8万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては1.5万kl少ない。

灯油は239.0万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては28.5万kl多い。

軽油は141.3万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては14.2万kl少ない。

A重油は66.6万kl、前週差0.1万kl減。前年に対しては5.6万kl少ない。

C重油は196.7万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては8.3万kl多い。

(単位:千KL)

| | 今週 (12/16) | 前週 (12/9) | 前週比 |
|--------|---------------|--------------|---------------|
| ガソリン | 1,678 | 1,700 | ▼ -22 (-1%) |
| ジェット燃料 | 1,020 | 1,001 | ▲ 19 (2%) |
| 灯油 | 2,390 | 2,432 | ▼ -42 (-2%) |
| 軽油 | 1,413 | 1,415 | ▼ -2 (-0%) |
| A重油 | 666 | 667 | ▼ -1 (-0%) |
| C重油 | 1,967 | 1,989 | ▼ -22 (-1%) |
| 合計 | 9,134 | 9,204 | ▼ -70 (-0.8%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月12日から12月18日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112円台で横ばい、軽油58円台でほぼ横ばい、灯油60円台でほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113~115円台で値下がり、軽油61円台で値下がり後横ばい、灯油59~60円台で出入りしつつやや値下がりし推移した。

先物価格は、ガソリン110~112円台で値下がり後やや回復、軽油58円台で横ばい、灯油59~61円台で値下がり後やや回復し推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5~1.0円の値上がりだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月12日から12月18日の原油コストは値上がりだったが、製品スポット市況は、各油種とも、陸上はわずかに値下がり、海上と先物はわずかに値上がりと値動きは分かれた。

12月第4週(12月21日~27日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(12月12日~18日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.2円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値上がりだった。

12月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5~1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

| (RIM) | | (単位: 円/%) | | |
|----------------------------|-------|--------------------|-------------------|--------|
| [陸上ローリー 4地区平均] | | 今週 (12/12 ~ 12/18) | 前週 (12/5 ~ 12/11) | 前週比 |
| ス ポ ッ ト 価 格 | レギュラー | 58.6 | 58.8 | ▼ -0.2 |
| | 灯油 | 60.6 | 60.8 | ▼ -0.2 |
| | 軽油 | 58.5 | 58.6 | ▼ -0.1 |

| (TOCOM) | | (単位: 円/%) | | |
|------------------|-------|--------------------|-------------------|-------|
| [期近物/終値] [平均] | | 今週 (12/12 ~ 12/18) | 前週 (12/5 ~ 12/11) | 前週比 |
| 先 物 価 格 | レギュラー | 57.7 | 57.4 | ▲ 0.3 |
| | 灯油 | 60.1 | 59.1 | ▲ 1.0 |
| | 軽油 | 58.0 | 58.0 | ➡ 0.0 |

※上記価格は税抜き価格

| 参考値 (12/12~12/18実績値) (単位: 円/%) | | | |
|--------------------------------|--------|-------|-------|
| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
| ガソリン | ▼ -0.2 | ▲ 0.3 | ▲ 0.1 |
| 灯油 | ▼ -0.2 | ▲ 1.0 | ▲ 0.4 |
| 軽油 | ▼ -0.1 | ➡ 0.0 | ➡ 0.0 |
| A重油 | ➡ 0.0 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の141.5円、軽油は同0.1円高の119.5円、灯油は同0.1円高の84.2円だった。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は14週連続の値上がり、灯油も14週連続(18ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは23都府県で、横ばいは10県、値下がり14道府県だった。全国最安値は埼玉県の136.7円(同0.2円高)、次が千葉県の137.3円(同0.1円高)、最高値は沖縄県の149.4円(同1.4円高)だった。最も値上がりしたのは、1.4円高の沖縄県(149.4円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりし、元売会社の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社据え置きとなったが、2週振りにガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は

は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、各油種とも、据え置きと0.5~1.0円の値上がりに分かれた。次週(12月25日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

| (資工庁公表) [週動向] | | (単位: 円/%) | | | |
|------------------|-------|------------|------------|-------|---------------|
| | | 今週 (12/18) | 前週 (12/11) | 前週比 | 直近高値 |
| 小 売 価 格 | レギュラー | 141.5 | 141.4 | ▲ 0.1 | 08/8/4 185.1 |
| | 灯油 | 84.2 | 84.1 | ▲ 0.1 | 08/8/11 132.1 |
| | 軽油 | 119.5 | 119.4 | ▲ 0.1 | 08/8/4 167.4 |

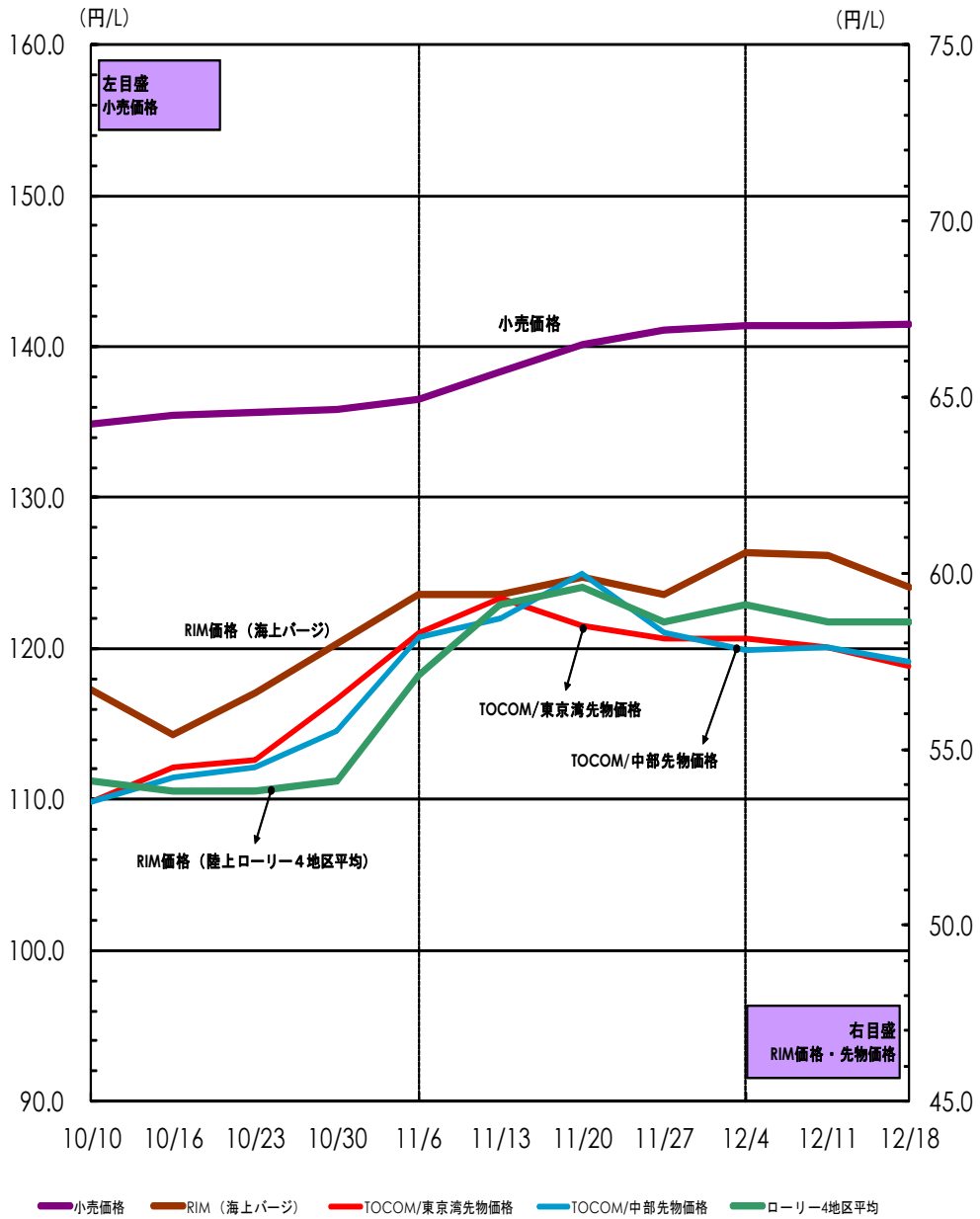
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/10/10 ~ 2017/12/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第37号)の公表は、12/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。